

平成26年11月20日(木)

平成26年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修  
【施策立案研修】個人演習発表

# チャレンジぼうさい in 四季が丘

所属 廿日市市立四季が丘市民センター  
名前 足立 勝

# はじめに

## □ 地区防災活動へ取り組む意義

- ・ 大規模災害時の地区内共助の重要性
- ・ 地区の特性をふまえた『協働のまちづくり』

## □ 発表の流れ

- 1 地区の現状
- 2 解決すべき課題（4項目）
- 3 事業実施（解決策）の提案
- 4 実施体制
- 5 関係者の声・具体事例
- 6 見込まれる成果・効果
- 7 今後の展望
- 8 まとめ

## □ 地区の現状 → 典型的な新興団地

- 平日の日中人口の大半は、子どもと女性、高齢者
- 地区内での人口流動性が低い
- 地区内人口の少子高齢化が徐々に進行



## □ 解決すべき課題

- ① 平日の日中の災害対策が弱い
- ② 団地内にある中学校との防災に関する連携が弱い
- ③ 地域住民が継続的に関わるような組織や活動がない
- ④ 十数年後には高齢化が一気に進むので、早めの対策が必要

## □ 事業実施（解決策）の提案

### 課題

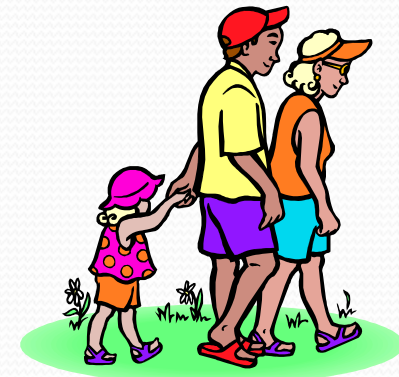
#### ① 平日の日中の災害対策が弱い

#### 提案 1：スタンプカードの導入

- ・ 「夏祭り」や「とんど」等の地区イベントの際に行う防災カリキュラム参加者に押印

#### 提案 2：防災ウォーキングの実施

- ・ 団地内の防災倉庫や砂防ダムの場所確認
- ・ 防災倉庫内の装備品を知る



## 課題

### ② 団地内にある中学校との防災に関する連携が弱い

#### 提案1：地区イベントを活用

- 「夏祭り」や「とんど」参加で関心を持たせる
- 防災ウォーキング終了後、大鍋大会

#### 提案2：防災キャンプの実施

- 避難生活で発生するトラブルの疑似体験





## 課題

### ③ 地域住民が継続的に関わるような組織や活動がない

#### 提案：3年後を目標に組織力UP

##### 第1段階：初年度は展示やゲームで住民全体の関心を高める

- 地区のイベントでの防災グッズの展示やゲームの実施

##### 第2段階：第2・3年度は防災アドバイザーの育成

- 専門的知識を習得するためのカリキュラムを消防署の協力で用意

##### 第3段階：第3年度からは防災アドバイザーを 町内会に配置

- 防災講習会で講師として活躍
- 地区自主防災協議会のリーダー的役割



## 課題

④ 十数年後には高齢化が一気に進むので、早めの対策が必要→**当面の対策として実施できるものをすぐに行う**

### 提案 1 : 講演会の活用

- 『自助・共助』の大切さを学ぶ
- 実際の災害で発生した問題点やその克服方法を学ぶ
- 非常食の知識を学ぶ

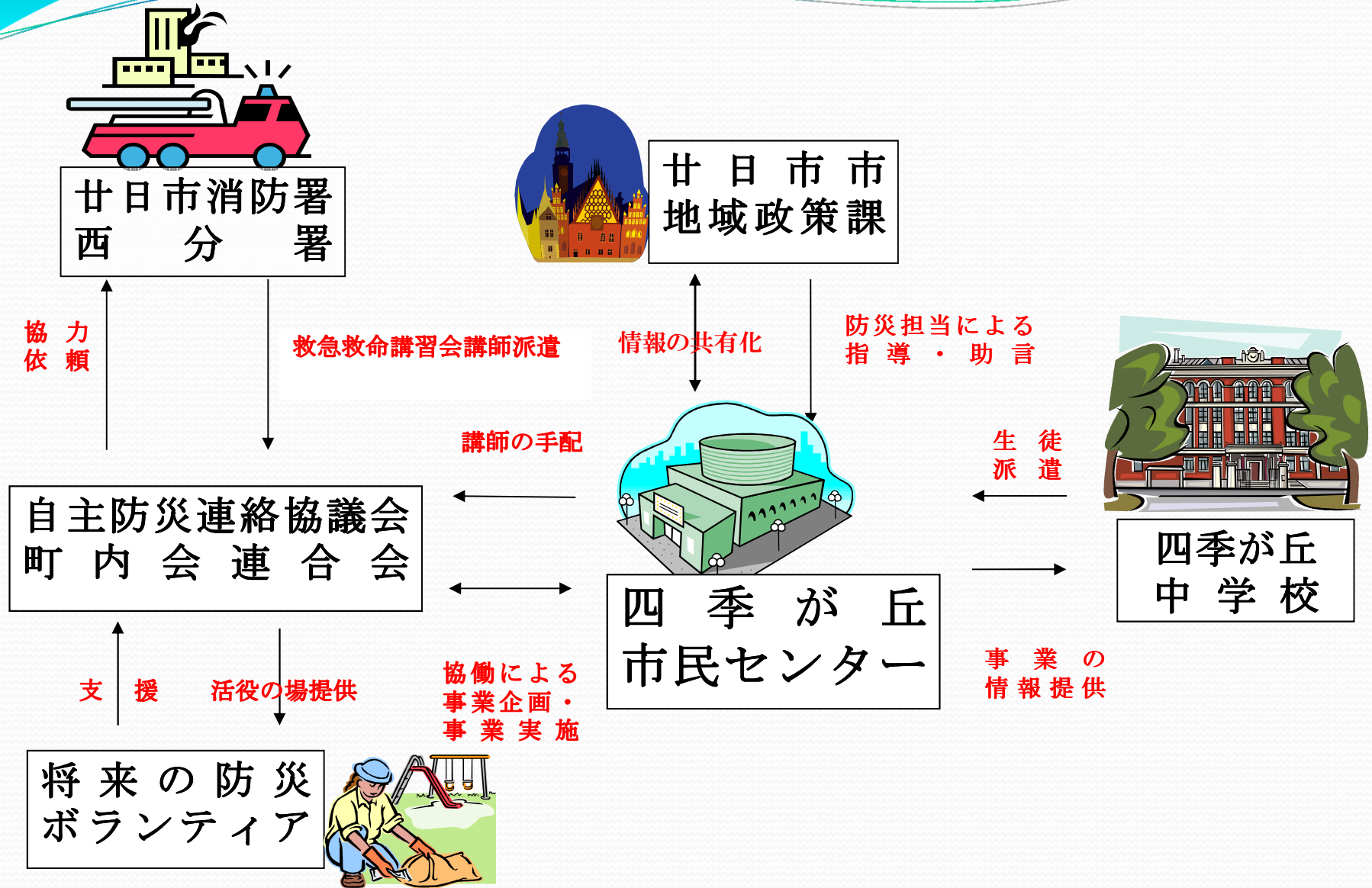
### 提案 2 : 救命救急講習会の利用

- 救命率の向上を目指す





# □ 実施体制



## □ 関係者の声・具体事例

### 地区自主防災連絡協議会主催の講演会

- ・ 参加者の大部分は、地区の防災役員
- ・ 地区内の他組織への呼びかけに期待

### 防災ウォーキング

- ・ 地区ウォーキング委員会に提案
- ・ 地区ウォーキング委員会と地区自主防災連絡協議会で協議し、実際に実施

### 結 果

- ・ ウォーキング参加者の増加
- ・ 参加者に好評（アンケート結果）



## □ 見込まれる成果・効果

### ○ 地区イベントの活用

- 地区住民の交流の場（お互いを知る機会）
- イベントを楽しみながら防災活動の予行ができる（大鍋など）
- 老若男女を問わず参加できる
- 防災ボランティアの活躍場所
- 年間優秀参加者には、記念品を授与してヤル気を喚起

### ○ 防災ウォーキング

- 健康の増進（いざという時の体力強化）
- 団地内の地形と施設の把握
- 平日日中の災害への備え（自身が居住していない場所の防災装備品の把握）

### ○ 防災キャンプ

- 避難所生活での問題克服方法を体験的に学習
- 共助者としての意識を中学生に持たせる

### ○ 講座・学習会

- 「自助・共助」の大切さを学ぶ
- 非常食のストック方法や避難所での問題克服方法等の実践的知識の習得
- 将来養成する防災ボランティアの活躍の場提供



## □ 成果指標（目標値）

### ○講座、学習会の開催回数

成果指標＝延べ8回

### ○事業参加者数

成果指標＝延べ250人

### ○「夏祭り」や「とんど」でロープワークや炊出し体験等に参加した人の数

成果指標＝延べ40人

### ○事業に参加した中学生の数

成果指標＝延べ50人

### ○プログラム参加回数年間5回以上の人数

成果指標＝全参加者の60%以上

## □ 今後の展望

### 2・3年目の支援プログラム

- ① もしもの時の料理教室  
少量の水と非常食を使った料理教室
- ② 家族で体験する防災キャンプ  
家族単位で市民センター等の避難所生活を体験
- ③ 防災ウォーキング  
初年度と同様年2回開催し、防災倉庫や危険個所を確認

# □ おわりに

